

立命館大学技術士会 第14回総会

議 案 書

R

令和5年(2023年) 6月24日

(一社)中央電気倶楽部 215号室

13:00 ~ 14:00

立命館大学技術士会第14回総会議案

<第1号議案>

立命館大学技術士会第13期(2022年4月1日～2023年3月31日)事業報告 1

<第2号議案>

立命館大学技術士会第13期決算報告および監査報告 3

<第3号議案>

第14期事業計画(案)および予算(案) 5

<第4号議案>

立命館大学技術士会会則改定 8

<第5号議案>

第14期役員人事(案):敬称略(2023年度および2024年度) 9

<第1号議案>

立命館大学技術士会第13期(2022年4月1日～2023年3月31日)事業報告

(1) 会員拡大と組織強化

第12期同様、当会の基盤強化として本会員および準会員並びに賛助会員の増員について役員幹事に働きかけ、1期あたり5名の増員を目指した。結果、本会員4名、準会員1名の方に入会していただき、2023年2月末時点で本会員161名、特別会員1名、準会員5名、賛助会員5社の総会員数は172となった。今後も引き続き、第二次試験合格者の情報入手および建設会並びに建立会等のOB会に対し、当会の活動情報を発信して会員拡大に努める。特に第13期はその具体策として、大学建設会に対してJABEE卒業生の技術士資格取得に関する実態調査を兼ねて、当会が調査票(建設会会員の技術士資格に関するアンケート)を作成し、それを年会報の郵送物の中に同封してもらい、併せて建設会事務局にはその回収にご協力いただいた。(調査機関は2022年8月20日～翌年3月末まで。)また、組織の運営体制については、第10期から4名の副会長それぞれに①企画、②渉外、③窓口、④広報・記録の総括責任者を担ってもらい、その活動は機能的に向上したが、より円滑な活動が図れるよう、幹事の増員を含め次期体制への更なる運営強化を見据え、検討を行うものとする。また第9期から加入した「大学技術士会連絡協議会」の令和4年度総会は、新型コロナウイルスの感染者数の減少もあり、2023年3月11日、東京電機大学東京千住キャンパスにて開催された。

当会からは、会長および渉外担当の幹事1名が、Webにて参加した。

(2) 技術士試験受験への支援

令和4年度技術士第二次試験受験対策講習会は、2022年3月12日に1回目の受験ガイダンスを行い、受講者は2名であった。その後、4月2日に2回目の受験ガイダンスを実施し、受講者3名に対し、前年度の合格者に合格体験談を語ってもらった。3回目5月7日の受験講習会には、4名の受講者が参加し、4回目6月11日の受験講習会には6名の受講者が参加したので、その指導に当たった。

この内、筆記試験合格者は1名であった。その後、11月12日実施した口頭模擬試験の受講者は、先の1名を含む4名であった。結果、合格発表日の令和5年3月10日には、口頭模擬試験受講者4名全員を合格に導くことが出来た。合格者の部門は建設部門(都市及び地方計画2名、施工計画、施工設備及び積算1名)、総合技術監理部門(鋼構造及びコンクリート1名)であった。

R5年度の技術士第二次試験受験対策講習会は、2023年3月11日に1回目の受験ガイダンスを行い、その際の受講者は1名であったが、当会が作成した講習会冊子に基づき受験指導を行った。

(3) 立命館大学への支援

大学の環境・都市系学科の授業を活用して、後進者である学生達に技術士制度の説明や各職域の業務内容について講義を行った。年々大学から当会に対し、講師派遣の依頼や相談事がなされ、その存在価値は高まってきている。

① 令和3年度から環境都市工学科4回生の『技術者実務演習』(前期4コマ)に対し、引き続き幹事等2名を派遣し、授業担当講師として講義している。引き続き令和4年度も技術士制度や第二次試験の問題解説、実社会での環境に係る実務紹介などの講義を行った。約25名の受講生は、いずれも目的意識を持つ優秀なJABEEコースの学生達で、真面目にしっかりと聴講してくれている。

② 本学、橋本教授からの依頼を受け、5月30日BKCにて環境都市工学科1回生に対し『めざせ！技術士』と題し、3名の幹事および1名の会員が対面にて90分の授業を行った。最初に技術士制度や技術士試験について説明した後、公務員、建設コンサルタント、ゼネコン技術士の講師がそれぞれの立場で職務と役割について講義した。講義資料は、昨年度同様にクイズ形式を取り入れ、学生達の関心を引くよう工夫された。学生達にとって、技術士とは何か、技術者としての倫理観の醸成およびキャリアアップの一助になったものと思われる。

③ 本学、惣田教授からの依頼を受け、7月21日BKCにて環境都市工学科3回生に対し『第13回立命技術士懇談会』と題し、4名の幹事が対面にて90分の授業を行った。学生達にとって、実社会の業界毎の業務内容を聴講したことで、今後の就職先を検討する足掛かりになったものと思われる。

(4) 技術講演会および親睦会

会員相互の資質向上の一環として、2022年6月25日の総会時にWEB併用にて二つの特別講演を行った。講演の一つ目は、シビル技術士事務所所長の奥村一氏(当会相談役)に、「琵琶湖疏水について」～語り部として伝えたいこと～と題して、外国技術者の力を借りず日本人のみで完成させた日本最初の大事業について、ご講演いただいた。

二つ目の講演は、本学理工学部環境システム工学科2012年卒業の西口彩乃さん、(株)アキュラホームSDGs推進室室長に「木のストローから生まれたもの」～木のストローから見る「SDGs/環境」の可能性について～と題して、間伐材を薄くスライスして作った1本のストローの裏側で何が起こっていたのか、またどんな世界が広がっていったか等について、ご講演いただいた。

なお、総会および講演会、その後の懇親会は、いずれも中央電気倶楽部にて新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を徹底したうえで開催した。

(5) 会員相互の親睦と技術レベルの向上

2015年7月に出版した電子書籍、『土木、この素敵な世界』に続く第二弾を出版するため、2021年3月に出版プロジェクト委員会を立ち上げ発刊に向けて活動してきた。結果、電子書籍(Amazon Kindle)として、2022年1月、『土木技術者が語る未来～今、伝えておきたい技術者の心～』を発刊することができた。16人の卒業生達が未来に伝えたい技術者の心を言葉にしたもので是非とも購読願いたい。大学での講義時や会員に対して、出版のお知らせを広報してきたところであるが今後も未来の技術者の礎となる本書について、推薦していく予定である。

また、会員相互の親睦のため、2022年11月12日、「第13回交流・懇親会」を中央電気倶楽部で行った。その折、来賓として本学理工学部環境都市工学科の惣田教授をお招きし、当会および参加者との親睦が図られた。なお、交流・懇親会参加費の一部を、本学の「未来人財育成基金」に寄付した。併せて交流懇親会時に2つの小講演を行い、玉木幹事には「新名神高速道路事業について」、春田幹事には「インフラDXについて」、いずれも新事業の最新情報を交えてご講演いただいた。

更には毎年、会員の技術レベルの向上のため、日頃の科学技術研究成果や技術報告をはじめ、自由闊達なご意見や近況報告について会報誌への投稿をお願いしている。第13期は、第6号を2022年11月、ホームページ上で発行した。会報誌の巻頭言は今道副会長に、特別寄稿として、本学建設会会長の大西博氏にお願いした。会員からの声として6編寄稿されたが、来期も引き続き、会員相互のコミュニケーションツールとして、活用していただきたいと考えている。

(6) 会計基金の充実と、事業企画の推進

2014年(平成26年)3月から、①技術士受験支援基金、② 各種講演会・交流企画基金、③ 大学支援・共同企画基金を設け、将来の各事業企画の有効な実施が図れるよう、備えている。

本基金の趣旨は上記に記すところであるが、過去の阪神・淡路大震災発生後に、あらゆる組織の活動が長期にわたり機能停止に追い込まれた苦い経験等や、更には来る南海トラフ大地震をはじめ、この度の新型コロナウイルス感染症等の疫病を含む複合災害等を見据え、有事の折には本基金が会の活動を停止することなく、有効に活用できるものとする。第13期の予算計画では10万円を考えていたが、来期への繰越金額に鑑み、5万円の積み立てとした。結果、現時点での総額は85万円となっている。

「土木技術者が語る未来」

～今、伝えておきたい技術者の心～

電子書籍出版のお知らせ 令和4年1月24日発売



圖書の概要

現在、日本の土木技術は近代土木と呼ばれる技術が花咲いた時代から大量生産の時代を経て、機械化やIT化という道を辿っています。また、世界は異常気象等の自然災害の多発や地域格差、人種や宗教間紛争、貧困問題、そして思いもよらないウイルス感染の蔓延という災禍に見舞われています。このような社会変化の中で、今の土木技術者はどのような未来の姿を望んでいるのでしょうか。

本書では土木分野に身を置く立命館大学理工学部土木工学科(当時)から、理工学部都市システム・環境システム工学科に至る卒業生16人の技術者が未来の技術者に伝えたい心を言葉にしています。

<第2号議案>

立命館大学技術士会第13期決算報告および監査報告
(2022年4月1日～2023年3月31日)

項 目	予 算	決 算	摘 要
(1) 収入			
①会費等収入	200,000	125,085	個人会費
	50,000	19,835	賛助会費
	130,000	136,274	その他(お祝い+会費寄付等)
②講習会収入	10,000	17,000	講習会受講参加費
③未来人財育成基金	20,000	16,000	
④その他	4,829	7,563	交流・懇親会残金等

今期計		321,757	
⑤前期繰越金	185,171	185,171	前期残高合計
合計	600,000	506,928	
(2) 支出			
①会員技術研修等支援活動費	150,000	132,130	
②大学教育支援活動費	10,000	15,000	
③技術士試験受験支援活動費	100,000	140,200	支援活動費、講習会場費
④その他活動費	50,000	19,000	未来人財育成基金(¥16,000)、広告費等
⑤通信事務費	100,000	66,621	
⑥会費振込手数料	20,000	516	

上記計	430,000	373,467	
⑦大学支援・共同企画基金	100,000	50,000	3活動基金
⑧予備費	70,000	-	
今期計	600,000	423,467	
	収入額	506,928	
	支出額	423,467	

収支合計＝		83,461	・・・次期繰り越し金額
監 査 報 告			
立命館大学技術士会第13期会計内容につき、通帳、金銭出納簿、領収証および入金書類を監査した結果、適正に処理、記載されていると認める。			
令和 5年 4月 28日		立命館大学技術士会	
	会計監事	山下 雅己	
	会計監事	兼塚 卓也	

積立基金会計（ゆうちょ銀行）

貯金名	預け年月日	預け金額	払戻(開始)年月日	年 利 率	%
定額貯金① 受験支援基金	H26-03-27	¥150,000	H26-09-27	0.04	
定額貯金② 講演交流基金	H26-03-27	¥150,000	H26-09-27	0.04	
定額貯金③ 大学支援基金	H27-03-30	¥150,000	H27-09-30	0.04	
定額貯金④ 3活動基金	H28-03-29	¥100,000	H28-09-29	0.01	
定額貯金⑤ 3活動基金	H29-03-30	¥100,000	H29-09-30	0.01	
定額貯金⑥ 3活動基金	R3-03-30	¥100,000	R3-09-30	0.002	
定額貯金⑦ 3活動基金	R4-03-28	¥50,000	R4-09-28	0.002	
定額貯金⑧ 3活動基金	R5-03-31	¥50,000	R5-10-01	0.002	
合 計		¥850,000			

*定額貯金⑧が、第13期に預けた基金である。

*定額貯金の利率は、3年以上預けた場合の年利率である。

また満期時は、10年経過となり、通常口座に振り替えられる予定です。

<第3号議案>

第14期事業計画(案)および予算(案)

<事業計画(案)>

(1) 会員拡大と組織強化

当会本会員の高齢化が進んでいるなか、組織の基盤強化と安定化を図るために本会員はもとより準会員、並びに賛助会員についてその拡大を図ることは重要である。引き続き、当会の活動趣旨に賛同して下さる卒業生等への積極的な働きかけを行い、支援を得たいと考える。

今後は役員・幹事のネットワークにより会員拡大を継続的に図ることは勿論、昨年8月に大学建設会会員への郵送物に同封していただいた『建設会技術士資格に関するアンケート』(2023年3月末締切り)の回答から、当会への入会希望者61名に対し、その働きかけを行う。なお、同アンケートの郵送総数約1万通に対して、回答数は279であった。

また、第10期から事務局の役割を4つ(①企画、②渉外、③窓口、④広報・記録)に区分し、4人の副会長を総括責任者に配置して、幹事をそれぞれに配属して円滑な活動を目指して4年が経過した。

更にこの体制を強化するため、先に示した4つの役割部署の総括責任者をそれぞれ2名体制にしたいと考える。併せて会計を担う幹事長職を補助する必要から、新たに副幹事長職を新設して作業の負担軽減と将来への速やかな引継ぎを考えたい。こうした意図から副会長を現行の6名程度から10名程度に、幹事も現行の30名以内から40名以内に増員し、更に副幹事長職を新設して2名程度とする内容で、会則の改定を考えたい。

なお、「大学技術士会連絡協議会」については、大学が抱える共通の課題や活動の情報共有を図るため継続加入することとし、年次総会が開催されればWeb参加を視野に入れて参画する予定である。

(2) 技術士試験受験への支援

既に2023年3月11日に開催した第1回受験ガイダンスに続き、4月1日に2回目の受験ガイダンスを実施し、当会が作成した受験のための参考資料の説明や、受験申込書並びに詳述小論文等の指導を行った。また、4月1日には4年度に合格された受講者に、合格体験談をお話いただいた。

その後、5月13日および6月10日の受験講習会では、7月16日、17日の本試験日を見据えて、論文等の添削指導に重点を置いて指導する予定である。なお、第二次筆記試験の可否通知は10月に予定されているため、当会の模擬口頭試験は、中央電気倶楽部にて11月11日、予定している。

(3) 立命館大学への支援

昨年に引き続き、環境都市工学科1回生を対象に6月5日、BKCにて『めざせ！技術士』と題して技術士制度や技術士試験の説明等を行い、技術士が日本の科学技術における最高位の国家資格であることを学ばせる。また、今年度から講師は幹事および一部会員だけに留まらず、広く全会員を対象に公募した。更には、環境都市工学科3回生に対し、7月20日『第14回立命技術士懇談会』を開催し、当会の幹事や会員が公務員、建設コンサルタント、ゼネコンのそれぞれの立場で技術士の職務と役割について対面授業にて講義する予定である。なお、本講義は本学建設会および(公社)日本技術士会近畿本部の後援のもと、実施する予定である。

また、令和3年度から環境都市工学科4回生の『技術者実務演習』(前期4コマ)に対し、授業担当講師として幹事等2名を派遣しているところであるが、今年度も同様に実施される旨、シラバスに組み込まれている。授業は、昨年度同様、技術士制度や第二次試験の問題解説、実社会での環境に係る実務紹介などの講義を行う予定である。

(4) 技術講演会および親睦会

これまで総会時には、本学理工学部先生や異分野を含む外部の講師を招いて特別講演を企画してきた。今年度も中央電気倶楽部にてリアルおよびWEB併用による2講演を企画している。

大学からは、環境都市工学科の岡井有佳教授をお招きし、都市計画のお話を、もう一人はエアロデザインジャパン(株)代表取締役社長の伊藤英氏をお招きして、最新のドローン事業についてご講演いただく予定である。

併せて総会および総会後の懇親会は、新型コロナ感染状況が小康状態であること、2類相当から5類への移行を踏まえ、必要な感染防止対策を施したうえで開催する。

(5) 会員相互の懇親と技術レベルの向上

当会の活動において、会員相互の親睦の機会が限られているため、令和5年度から受験対策講習会時の講師や、大学支援の一環で講義している「めざせ！技術士」および「立命技術士懇談会」時の講師について、広く会員から公募することにした。結果、現時点では限られた人数ではあるが、講師として参画していただき、こうした活動を通じて更なる親睦を図りたいと考えている。

また、会員相互のコミュニケーションツールとして発行している会報誌であるが、今年度も11月頃、第7号の発行を予定している。会員への投稿呼びかけは、当会ホームページにて7月頃に募集する予定である。

また、毎年11月に実施している交流・懇親会は同月11日、中央電気倶楽部にてその開催を予定しているが、会員に対して技術発表や最新の事業紹介等の場を提供し、技術レベルの向上と相互の幅広い交流、親睦を図りたいと考えている。

(6) 会計基金の充実と、事業企画の推進

本基金は受験支援、講演交流、大学支援の3つの活動を企画支援するため、2014年(平成26年)3月以降、積み立てを行ってきた。2020年(令和2年)1月に国内で新型コロナ感染者が確認されて以降、一連のリアルな活動は自粛してきたところであるが、今後はその感染状況が収束すれば、基金の趣旨に則った事業を検討・企画し、推進していきたいと考える。

また、第13期の報告においても述べたが、有事の災害等が発生した場合には、会の活動資金として有効に活用することも視野に入れている。併せて今後、既会員の高齢化が進み、かつ新規入会者が頭打ちとなった状況下でも、向こう2年間は当会の機能が停止することなく活動できるよう、基金は総額100万円を目途にその充実を図りたいと考えている。

<予 算(案)>

① 収 入

(1) 会費等	本・特別・準会員	150,000	
	賛助会員	50,000	
	その他(お祝い+寄付等)	100,000	
(2) 講習会等		20,000	
(3) 未来人財育成基金		20,000	交流・懇親会参加費より
(4) その他		26,539	
(5) 前期繰越金		83,461	
合 計		450,000	

② 支 出

(1) 会員技術研修等支援活動費		150,000
(2) 大学教育支援活動費(支援活動派遣費・協力費含む)		20,000
(3) 技術士試験受験支援活動費(支援活動派遣費・協力費含む)		150,000
(4) その他活動費(未来人財育成基金、広告費等)		30,000
(5) 通信事務費		15,000
(6) 会費振込手数料		5,000
上記計		370,000
(7) 大学支援・共同企画基金(3活動基金)		50,000
(8) 予備費		30,000
合 計		450,000

積 立 基 金 会 計 (ゆ う ち ょ 銀 行)

預 金 名	預け年月日	預け金額	払戻(開始)年月日	年 利 率	%
定額貯金① 受験支援基金	H26-03-27	¥150,000	H26-09-27	0.04	
定額貯金② 講演交流基金	H26-03-27	¥150,000	H26-09-27	0.04	
定額貯金③ 大学支援基金	H27-03-30	¥150,000	H27-09-30	0.04	
定額貯金④ 3活動基金	H28-03-29	¥100,000	H28-09-29	0.01	
定額貯金⑤ 3活動基金	H29-03-30	¥100,000	H29-09-30	0.01	
定額貯金⑥ 3活動基金	R3-03-30	¥100,000	R3-09-30	0.002	
定額貯金⑦ 3活動基金	R4-03-28	¥50,000	R4-09-28	0.002	
定額貯金⑧ 3活動基金	R5-03-31	¥50,000	R5-10-01	0.002	
定額貯金⑨ 3活動基金	R6-03-31	¥50,000	R6-10-01	0.002	
合 計		¥900,000			

* 定額貯金⑨が、第14期の基金予定額である。

* 定額貯金の利率は、3年以上預けた場合の年利率である。

また満期時は10年経過となり、通常口座に振り替えられる予定です。

<第4号議案>

立命館大学技術士会会則改定

2009年12月に設立以来、本会則にしたがって一步一步着実に歩んできた技術士会も今期で14年を迎える。組織の基盤強化および恒久かつ継続的な発展を見据え、会則を改定し更なる組織の安定と拡充を図るものとする。

<改定①>

第3章 役員

(役員)

第10条 本会には次の役員を置く。

会 長	1名
副 会 長	10名程度
幹 事 長	1名
副 幹 事 長	2名程度
幹 事	40名以内
会 計 監 事	2名

<改定②>

第3章 役員

(職務)

第13条 会長は本会を代表し会務を統括する。

2. 副会長は会長を補佐し会長に事故等ある時はその職務を代行する。
3. 幹事長は幹事会を招集し会の円滑な運営を行う。
4. 副幹事長は幹事長を補佐し幹事長に事故等ある時はその職務を代行する。
5. 幹事長は会費・寄付金その他の収入金を管理し、必要に応じ会長の同意を得て経費その他の支出を行う。
6. 幹事は幹事会において本会の運営について審議し決定し、事務ならびに会計業務を行う。
なお幹事長は、必要に応じて役割分担のワーキンググループを構成することができる。
7. 会計監事は会計を監査し定時総会においてその結果を報告する。

<改定③>

第4章 会議

(種類)

第16条 本会の会議は総会および幹事会とする。

9. 幹事会の議長は会長あるいは副会長が務める。

<改定④>

第8章 附則

(会則の施行)

第27条

本会則を改定し、令和5年(2023年)6月24日より施行する。

なお、詳しくは、[会則改定案](#)を参照ください。

<第5号議案>

第14期役員人事(案)：敬称略(2023年度および2024年度)

役職名	氏名 (敬称略)	卒業年	部門
会長 (1名)	土屋 光弘 留任	S 58	建設
副会長 (10名程度)	楠本 博 留任	S 54	建設
	日室 伸一 新任	S 54	上下水道、建設
	中井 稔 新任	H 02	建設
	星野 和之 新任	H 03	建設
	太田 和夫 留任	H 05	建設
	今道 洋 留任	H 13院	上下水道、建設
	橋口 正悟 留任	H 15院	建設
	寺尾 康孝 新任	H 15院	建設
幹事 (40名以内)	土屋 光弘 留任	S 58	建設
	西村 敏 留任	S 54	上下水道
	楠本 博 留任	S 54	建設
	日室 伸一 留任	S 54	上下水道、建設
	吉田 順一郎 留任	S 55	建設
	久後 雅治 留任	S 57	建設
	野村 嘉樹 留任	S 60	上下水道
	往西 浩司 新任	S 62	建設
	中井 稔 留任	H 02	建設
	星野 和之 留任	H 03	建設
	畑中 章秀 新任	H 05院	建設
	青山 裕之 留任	H 05	建設
	太田 和夫 留任	H 05	建設
	深津 真彦 留任	H 07院	建設
	今井 豊 留任	H 08	上下水道
	小島 真理 新任	H 09	建設
	坂本 尚久 新任	H 11	機械
	春田 健作 留任	H 12院	建設
	菊池 博之 留任	H 12院	機械
	北岸 真佳 留任	H 12	上下水道
	今道 洋 留任	H 13院	上下水道、建設
	長谷川 真也 留任	H 13	農業、建設
	北口 和雅 留任	H 13	上下水道
	玉木 政人 留任	H 13	建設
	橋口 正悟 留任	H 15院	建設
	寺尾 康孝 新任	H 15院	建設
人羅 真一 留任	H 16	建設	
服部 亘啓 留任	H 17院	建設	
幹事長	西村 敏 留任	S 54	上下水道
副幹事長 (2名程度)	太田 和夫 新任(兼務)	H 05	建設
監事 (2名)	山下 雅己 留任	S 53	建設
	兼塚 卓也 留任	S 57	建設

幹事および監事、以外の役員

役職名	氏名 (敬称略)	摘要
顧問	山田 淳 田中 伊三雄 糸田川 廣志	
相談役	奥村 一 岸田 順三 渡邊 郁夫 大森 秀高	